

森川 亜紀 議員  
西条自民クラブ



子どもと保護者が安心して過ごせる居場所の確保を！

**問** 現在、市内にある四つの児童館は、全て同一曜日を休館日として運営されており、市内全体で利用できない日が固定化されている。また、祝日が休館となる運用により、保育園や学校が休みの日に親子が利用できない状況も生じている。利用機会の確保という観点から、現行の開館日の設定を見直す余地はないか。

**答**

児童館が休館となる月曜日は、子育て交流センターここでらすこまつが開館しており、親子で利用できるため、まずはそちらの活用をお願いしたい。

今後は、利用を

希望する曜日などのニーズ調査を実施した上で、実施体制なども勘案し、総合的に検討したい。



ここでらすこまつ

伊藤 良二 議員  
西条自民クラブ



新被害想定説明会の早急な開催を！

**問** 愛媛県は南海トラフ巨大地震の新被害想定公表に併せて、沿岸部における地震発生後の浸水アニメーションを発表した。これを見た人たちは「こんなに早く浸水エリアが広がったら、対処のしようがない」と不安の声が上がっている。市民が浸水リスクを正しく理解し、迅速に行動できるようにするためにも早急に説明会を開催すべきではないか。

**答**

令和8年度から、危機管理部門を市長直轄組織として位置付け、多様化する災害・危機事象に、より迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。

これまでも自治会や自主防災組織などからの要請に応じて、ハザード情報の説明や防災講話を行ってきた。今回、新被害想定が公表されたことから、あらゆる機会を捉えて周知を図りたい。

柳原 政彦 議員  
西条自民クラブ



誰一人取り残さない避難支援を！

**問** 災害時、高齢者や障害者の命を守るため、個別避難計画の策定に係る避難行動要支援者支援事業は避難体制の構築に極めて大きな意味を持つが、どのように予算を積算したのか。また、今後の方針はどのように考えているのか。

**答**

令和8年度からは福祉事業者に支払う基本委託料を5千円に増額したほか、地域支援者の選定に係る加算制度も設けた上で、総額212万円を計上している。

誰一人取り残さない防災などを具現化するため、引き続き、福祉事業者へのピア

リングなどのフォローアップに取り組み、令和9年度以降も同事業を継続する方針である。



日野 克則 議員  
夢みらいクラブ



移住者が安心して暮らせる取組を！

**問** 全国の自治体で移住者の獲得競争が激化する中、本市が選ばれ続けるためには、住宅改修費用などの経済的支援だけでなく、地域とのつながりへの不安も解消する必要があると考えるが、今後、どのように取り組むのか。

**答**

移住者住宅改修支援事業費補助金は、単なる経済的支援にとどまらず、移住者が安心して新生活をスタートできる環境を整え、自治会への加入や市内事業者の活用を促し、地域とのつながりを生み出している。

今後も移住促進事業と他の移住施策を一体的に推進し、移住後も安心して暮らし続けられる環境づくりを進めることで、移住者の増加を一時的なものに終わらせるとなく、確実な定住化へとつなげるとともに、人口減少の抑制と持続可能な地域づくりを実現したい。